

2017 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [海星学院高等学校] 担当教諭名 [山根 洋・市川 栄作] (2年 65名)

相手国・地域 [メキシコ]

海外学校名 [Centros de Idiomas, Universidad Veracruzana] 担当教諭名 [黒崎 充]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	総合的な学習の時間	国際理解	20

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	食べ物と私たち La comida y nosotros Food and us
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	メキシコと日本。遠く離れた私たち。しかし、きっかけや意志があれば心を通わすことができる。誰にとっても必要な食べ物。心の通わした相手には、それを分かち合わずにいられない。 見る人に私たちのそんな想いを少しでも感じてもらえたなら、嬉しいです。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 相手国及び自国の文化、言語、国際交流に対する生徒の興味、関心が高まった。今年度は時差の関係で、互いの顔が見えにくい中で融合について意見交換を行った。相手の熱意や構図の狙いが伝わってくるにつれ、相手を尊重する姿勢が強まっていった。ユネスコの精神に通じる人間性が育まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 当事業は、校内において伝統行事となりつつあり、構図デザインにおいて生徒のモチベーションが例年以上に高く、その分「こだわり」が強かったが、交流を通じて、相手と真摯に向き合い、外国人・交流相手からパートナーへと相手に対する意識が変わり、壁画制作への意欲を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当教科外の活動で、生徒理解が深まった。互いの顔が見えない中でも意見交換が円滑に進み、例年以上の成果をあげられたのは、メキシコ側の担当者のきめ細かい支援による。JAMの紹介で実施した訪日交流より培ってきた教員間の信頼関係があればこそであり、黒崎先生、JAMに感謝申し上げます。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	8月 9月	・概要説明 ・役割分担、班編成(調べ学習班、スカイプ班、カード企画班、美術班) ・自己紹介シートを持った姿をフォーラムに互いにアップした上でスカイプ交流を実施。カード企画班が中心となって全生徒で作ったカードを同封し、画材を送付。	6月上旬に教員のメール交流開始、7月にスカイプテスト実施。8月下旬には自己紹介を校内掲示。9月にスカイプ班が中心に準備を進め、スペイン語を交えて、浴衣や扇子、かるたの紹介を行ったり、書道パフォーマンスをおこなったり工夫が見られた。通信が不安定だったが、互いに交流につとめ、生徒の参加意欲が高まった。	総合
共有 テーマ学習	10月 11月	・調べ学習班がテーマ(富士山・食べ物・祭・生活様式)毎にわかれて、資料を作製し、フォーラムに掲載。	自己紹介カードの「知りたいこと」をもとに調べ学習のテーマを絞る。写真を多用するなど資料に工夫が見られた。	総合
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	・メール・フォーラムを中心に、構図や下絵について、議論を重ね、合意する。	受信するメッセージに一喜一憂しながら、相手の考案した構図にどのようなねらいや想いがあるのか、自分たちの考案した構図のねらいや想いを如何にメールで伝えるかを考えた。	総合
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	・12月に相手側の作業が終わり、1月下旬より制作を開始。その様子をフォーラムにアップする。	学年で開封式を行い、描写の緻密さに感嘆する。学級を超えた協働の難しさと遣り甲斐を感じる事ができた	総合
評価 振り返り 自己評価	3月	・3月中旬に壁画完成。 ・3月中旬にスカイプを通じて合同鑑賞会を実施。	壁画の感想を伝えあうことを通じ、相手と達成感を共有した。完成した壁画をもとに、題名について相手と建設的に協議することができた。	総合

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	日本文化への相手の興味関心を高めるために、自国の文化について学ぶ必要性を認識し、積極的にトピック調査を行うことができた。
異文化を理解する力	5	構図の意見交換を通じて、相手との「相違点」はもちろん、壁画に対する熱意といった「共通点」に気づき、相手を尊重する姿勢を培えた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	日本文化について相手に関心を持ってもらうため、シンボリックなトピックを扱ったり、実物を使った発表を考案し、実行することができた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	相手が受ける印象を考えながら、言語・伝え方・交流の企画・実物の使用などを工夫し、準備をすすめ、スカイプ交流で達成感を得た。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	各班で、自分たちがしたいことをするのではなく、アートマイルの目的から、それぞれの活動の内容を検討しながら活動することができた。
主体的に考え行動する力	4	活動するグループの中で、役割分担を生徒が自発的に決めていく場面が度々見受けられた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	校内では、自分の役割はもちろん、周囲の役割を他人任せにせず、互いに声をかけあいながら、協働することができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	下絵の合意形成の中で、壁画に描く人物の様子や物、構図全体に対して、「そこにそれを描く意味」を絶えず検討しながら、取り組めた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	5	批判的に思考する力が増し、活動に一貫性を出すことができた。作品の鑑賞会でしっかりと感想(評価)を伝えることができた。